

資料 1

姫路獨協大学の 今後の在り方について



姫路獨協大学在り方審議会の検討項目

検討項目・イメージ

- 01 姫路獨協大学の公立大学法人化の要望について、どう考えるか？
- 02 公立大学法人化しない場合、学校法人獨協学園に期待することは？
- 03 大学として存続する場合、期待することは？

公立大学法人化

- 姫路市における公立大学の必要性
- 姫路市の財政負担



公立大学法人化しない場合

事業譲渡

- 他の学校法人による再建

自主再建

- 学校法人獨協学園全体で再建

廃校

- 姫路市への影響



大学に期待することは？

01 姫路獨協大学の公立大学法人化の要望について、どう考えるか？

姫路獨協大学在り方審議会における、これまでの主な意見①

公立大学法人化の影響

- 運営形態が公立大学法人に変わるだけでは、姫路獨協大学に魅力が出るわけではない
- 公立大学法人化したときに、非常に経営状況が良くなって再生できるという一種のゲームチェンジャーのように考えるのは非常に危険
- 公正な民間競争を阻害する懸念があり、大学間の公平性が損なわれる

姫路獨協大学の現状とこれまでの再建計画

- 設立当初、姫路市から総額50億円と用地等の財政支援があったが、今の財務状況はどうなのか
- 赤字に陥り始めたとき、10年先を見越した財務諸表を作り、計画を立てたのか。再建計画と結果が大きく乖離し続けているのは何故なのか
- 姫路獨協大学として10年後、20年後にどうあるべきか見据え、計画を立てるべき。どこに魅力を見出すのか、大学としての戦略が必要
- 大学機関調査研究の結果を踏まえた広報活動を行うべき。費用対効果の分析、PDCAが甘い

公立大学の運営に係る姫路市の財政負担

- 収支のマイナスが続いており、経営的にかなり難しい。抜本的な修繕工事のある年は負債が桁違いに大きくなり、リスクの高い状況にあると考える
- 大規模改修費を考えると費用的な部分は相当厳しい。姫路市が維持・運営できるかどうかは非常に疑問
- 数字を見て公立大学法人化は厳しいと感じた
- DX化の環境整備やDX人材の確保等に多大な経費がかかると想定される

01 姫路獨協大学の公立大学法人化の要望について、どう考えるか?

姫路獨協大学在り方審議会における、これまでの主な意見②

市民への説明責任 市民の理解は得られるのか

- 現在の負債は獨協学園が負担されると聞いたが、姫路市が出資した50億円についても返してもらうことも考えていただかなければ、市民の理解は得られにくい
- これだけ投資して、さらに赤字が出ることを市民が納得するのか
- どうしても公立大学法人化するならば、投資を回収することについて、きちんと立証する必要がある
- 少子化で学校施設の統廃合が進められている中、これだけの財政負担に市民が納得するのか
- 優秀な人材が姫路市や近隣に就職して良い成果を出すという未来が描けないと、市民の理解を得られるのは非常に厳しい

公立大学法人化に対する 姫路市の覚悟

- どのように学生を集めるのか、大学の魅力をどう作るのか、誰が立て直すのか、その覚悟が姫路市にあるのか
- 姫路市からは公立大学法人化するほどの覚悟は感じられない。それが結論ではないか
- 財政的にも、周辺大学等の状況から考えても、公立大学法人化しないことが一つの結論だと考える
- 公立大学法人化するかどうかは、姫路市が高等教育をどこまで重視するか、市民の理解を得て、多額の投資をする考えがあるかどうかにかき尽きる
- 住民の福祉のため、赤字続きの病院に、住民の理解の中で毎年何億円も補填する自治体はいくつもある。公立大学法人化するかどうかは、姫路市の財政状況の中で考えること。市民と市議会で、じっくり議論されたい

公立大学法人化への期待

- 公立大学ができることは、学生にとって学びの選択肢が増えることである
- 公立大学法人化するのであれば、すべての学部を引き継いでほしい

02 公立大学法人化しない場合、学校法人獨協学園に期待することは？

姫路獨協大学在り方審議会における、これまでの主な意見

事業譲渡

- 公立大学法人化や自主再建が難しいとなると、事業譲渡の可能性があれば選択肢の一つだと思う
- 公立大学法人化を要望する前に、譲渡の検討はされたのか
- 財務資料や財政シミュレーションをみて、この譲渡を受ける相手がいるのか
- 事業譲渡するにしても、姫路市としてどんな条件を進めるつもりなのか。大学間の公平性に留意願いたい

自主再建

- 獨協学園は、これまで姫路獨協大学の立て直しに、どう関わってきたのか。獨協学園からの資金的な支援等まだ何かできる部分があるのではないか
- 獨協学園として、姫路獨協大学として、自主再建する意思はあるのか

廃校

- 廃校を議論するのはどうか
- 箱モノもあり、伝統もあり、姫路市民の心情も考えると、廃校は厳しい

- 医療機関への人材供給等に貢献されており、どういう形でも大学として残ってほしい
- 医療系人材は不足しており、今後も高齢化社会でニーズは高まるが、サイズダウン等の改革は必要

- 今残っている学生たちがどうなるかということは、しっかりと確認してほしい

03 大学として存続する場合、期待することは？

姫路獨協大学在り方審議会における、これまでの主な意見①

大学の魅力の向上 選ばれる大学に

- 姫路市は兵庫県第2の都市で、新幹線も停まるし、神戸も近い。設置形態に関わらず、大学に魅力があれば学生は集まる
- 教育と経営は別ではない。良い教育の提供は、大学の魅力につながり学生が集まる。大学の魅力をどう高めていくのが、最も大切な視点
- 関西圏に多くの競合相手がいる中で、特徴を出していかないと定員割れが続く可能性がある
- 薬剤師国家試験の合格率が低い。18歳人口の減はどこも同じであり、大学自身としての努力が必要
- ステークホルダーの考えを聞き、大学として何ができるのか考えるべき
- 就職先など卒業後の未来が見えれば、「選ばれる大学」になる

地域との連携・関わり

- 大学が「地域」の中で生き残るという考え方が必要
- 地域の人や卒業生に愛される大学であるべき
- 医療系高等教育・研究機構と県立はりま姫路総合医療センターとの関わりはどうか



人材育成

- 教育の主体は学び続ける学生たちである。市場価値のある人の育成だけではなく、幸せの追求やより生きやすい方法の模索等もベースに必要なのではないか
- 医療系人材は不足しており、今後も高齢化社会でニーズは高まる

03 大学として存続する場合、期待することは？

姫路獨協大学在り方審議会における、これまでの主な意見②

姫路市に期待すること

- 姫路市という文化と歴史のある土地に、高等教育の拠点として存在してきた大学は大変貴重なものである
- 教育という次世代の人材育成は極めて大切であり、将来の姫路市のさまざまなことに繋がる



参考) 姫路市の高等教育の目指す姿－姫路市総合計画－

大学等の高等教育機関が、多様な教育の機会を提供するとともに、自らの強みや特色を活かした研究活動などを通じて、地域社会の活性化に貢献している。

○ 現状と課題

- 本市には、大学・短期大学が5校あるほか専修学校も多数あり、これらの高等教育機関は、社会人の学び直し（リカレント教育）を含む人材育成や、産官学連携の推進などを通じて、地域社会の持続的な成長に重要な役割を担うことが求められている
- 医療系高等教育・研究機構と県立はりま姫路総合医療センターとの一体的な整備など、本市の高等教育機関が持つ強みや特色を伸ばしていくことで、高等教育機関の魅力が高まり、多様な地域から人材が流入し定着することが期待されている

○ 市の取組の方向性

大学の特色を活かした地域の活性化

- 市と大学との連携を進めるとともに、大学の有する高度・専門的な資源を地域に還元することで、地域の活性化を図る

知の拠点としての高等教育機関の充実

- 多様な人材育成や産学連携などを促進するため、地域における知の拠点としての高等教育機関の教育研究環境の充実を図る

学びを支える教育環境の充実

- 学ぶ意欲のある学生の就学を支援する